

第4学年 社会科学学習指導案

日 時 令和4年6月8日(水) 5校時
対 象 第4学年1組30名
指導者 小新 祐介

1 小単元名

『水はどこから』（明治図書 P.14～P.25）

2 小単元の目標

- 安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解することができる。 【知識及び技能】
- 飲料水などを供給する事業について、供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などに着目して、調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、それらの事業が果たす役割を考え、表現できる。 【思考力、判断力、表現力等】
- よりよい社会を考え、学習したことをもとに、社会への関わり方を選択・判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・飲料水供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などに着目して調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、飲料水の供給のための事業の様子を理解している。・調べたことを白地図や図、文章などにまとめ、飲料水を供給する事業について、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。	<ul style="list-style-type: none">・飲料水供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などに着目して、問いを見出し、飲料水の供給のための事業の様子について考え表現している。・飲料水供給の事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて、それらの事業が果たす役割を考えたり、学習したことをもとに節水のために自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現している。	<ul style="list-style-type: none">・飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。・よりよい社会を考え、学習したことをもとに、社会への関わり方を選択・判断することができる。

4 小単元について

(1) 教材観

本小単元は、学習指導要領の内容(2)の「人々の健康や生活環境を支える事業について」に関する内容で構成されている。本小単元では、水道を介して人々に届けられている飲料水について扱う。小単元全体を通じて、児童の日常生活を振り返らせ、実生活に直結するという実感をも

たせることで、興味関心をもって調べたり自分たちにできることを考えたりできると考える。学習指導要領の内容の取扱いに「節水や節電など自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること」とある。そこで、実生活と結びつけて考えさせることで、どの児童でも具体的に考えをもち、友達と意見交流することで考えを深めることができると考える。この教材では特に、学習内容を自分の言葉でまとめたり、友達と深め合ったりする能力を育てたい。

(2) 児童の実態

昨年度から社会科の学習が始まり、これまで、3年生では中野区の特徴、4年生になってからは東京都の特徴について学習してきた。ライフラインについての学習は、本小単元が初めてとなる。児童は、安心、安全な水道水が当たり前で得られるものだと思込している。本小単元の学習を通して、様々な人々の協力や、計画的な供給の仕組みにより、わたしたちの元に届けられているということに気付かせたい。

調べる活動については、意欲的に取り組む児童が多いが、まとめる段階になると自分の考えを出せない児童が多い。学級会などで友達と意見交流する際は、意見が複数挙がったときに、どれかを選択するだけでなく、よりよい新たな考えを導き出せる児童がいる。本小単元のまとめで、友達と協力して各々の意見のよさを取り出してまとめる活動を取り入れることで、今後一人一人が学習内容を自分の言葉でまとめられるようになる素地を養いたい。また、児童は、前年度までにスライドを用いたまとめなどを経験し、自分の課題を設定して計画を立て、工夫して ICT 機器で表現することに慣れている。SKYMENU Cloud の「発表ノート」を活用することで、手書きに伴う書く力や器用さなどにとらわれず、意見を交流させながらまとめの活動を行わせ、より協働的に活動できるようにしたい。

5 研究主題との関連

(1) 主題に迫るための2つの手だて

研究主題に迫るために本単元における手だてや学習活動を以下に示す。

個別最適な学び

- ・自分の意見を記入する発表ノートをつくり、自分の考えをもてるようにする。

協働的な学び

- ・発表ノートの「グループ学習」機能を使い、グループで相談しながら同時にまとめを作成できるようにする。
- ・3～4人の少人数のグループをつくり、発言しやすくする。

(2) ICT 活用の経過

タブレットの具体的な活用実態について以下の表にまとめた。

時期	ツール	内 容
4 月	カメラ Google Classroom コラボノート®EX	写真の撮影 学習で使用する資料の配付、課題の提出、連絡帳 授業用ワークシート
5 月	SKYMENU Cloud	発表ノートを活用した授業用ワークシート グループ学習機能 Google フォームのアンケート

6 小単元の指導と評価の計画（8時間扱い 本時 7 / 8）

学習過程	時	学 習 活 動	○評価規準【観点】★ICT の活用
つかむ	1	○水道水についての疑問を出し合い、課題意識をもつ。 ・【A:ミネラルウォーター】【B:ミネラルウォーター】【C:3階の水道水】を飲み比べ、どれが何かを考える。 ・水道水のよいところについて話し合い、疑問に思ったことを書き出す。	○飲料水について、疑問や予想を立て、調べたいことを考えている。 【態】 ★資料提示（Google スライド）
	2	○疑問を整理し、学習問題をつくり、学習問題に対する予想をもとに学習計画を立てる。 ☆学習問題 安全でおいしい水道水がいつでも手に入るように、だれがどのような工夫をしているのだろうか。	○飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立て、学習問題を追究している。 【態】 ★疑問の集約（コラボノート®EX）
調べる	3	○水源林の働きについて調べる。 ・水源林の働き ①水をたくわえる ②水をきれいにする ③土砂流れを防ぐ ④空気をきれいにする ⑤生き物を育てる ・水源林を守る人々の活動 【水源林の管理】枝打など 【宣伝活動】「ふれあいの道」の造設など	○水源林の広がりや働きを理解している。 【知・技】 ★動画視聴（DVD） ★浄水場の検索（Google Chrome）
	4	○ダムや導水路について調べる。 ・水の通り道 水源林→ダム→川→取水堰→浄水場→学校・家庭など→水再生センター→川→海・・・ ・ダムのはたらき 水不足を防ぐ 洪水被害等の水害を防ぐ	○調べたことを基に、東京都と近隣の協力関係に着目して、ダムや導水路と水源林の確保について考えている。 【思・判・表】

	5	○浄水場の機械による浄水の仕組みについて調べる。 ・浄水の流れと、高度浄水処理の仕組み	○浄水場では、たくさんの過程を経て、川の水を安全でおいしい水にしていることを理解している。 【知・技】
	6	○浄水場で働く人の工夫や努力について調べる。 ・検査 ・責任感 ○これまでの学習を個人でまとめる。 ・「わたしたちが安全でおいしい水道水をいつでも手に入れられるようにするための仕組み」がよく分かるようにまとめる。	
まとめる (本時)	7	○グループで話し合い、よりよいまとめを考えて発表ノートにまとめる。 ○各グループのまとめを閲覧し、よいところを見付ける。 ○自分のまとめを修正する。	○供給の事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて、それらの事業が果たす役割を考え、適切に自分の表現を見直している。 【思・判・表】 ★学習内容をまとめる活動 (「SKYMENU Cloud」発表ノート)
いかす	8	○水を大切にするために自分ができそうなことを考え、発表ノートにまとめる。 ・グループで話し合い、よりよい案を考え、発表ノート(グループワーク)にまとめる。 ・グループごとに発表する。	○学習したことをもとに節水のために自分たちにできることを選択・判断し、適切に表現している。 【思・判・表】 ○よりよい社会を考え、学習したことをもとに、社会への関わり方を選択・判断している。 【態】 ★発表用資料の作成 (「SKYMENU Cloud」発表ノート)

7 本時の指導 (7 / 8)

(1) 目標

- 友達のまとめと自分のまとめを比較し、グループで協働してよりよいまとめを考える。
- グループでの学習を生かし、自分のまとめをよりよくすることができる。

(2) 展開

	学 習 活 動	○評価【観点】 ※指導上の留意点 ★ICT の活用
導 入 5 分	<p>1 学習の流れを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループでよりよいまとめについて話し合い、自分のまとめを見直そう。</p> </div> <p>・「よいまとめ」の確認</p> <p>①安全でおいしい水道水がいつでも手に入る仕組みについての情報が入っていること</p> <p>②見やすく、伝わりやすいこと</p>	
展 開 25 分	<p>2 グループの友達の発表ノートを見合い、直すべきところやよいところを伝え合う。</p> <p>3 話し合ったことを生かして、グループとしてのまとめをつくる。</p> <p>4 他のグループのまとめを見合う。 こだわったところについて聞き合う。</p>	<p>★発表ノートのグループワーク機能の活用</p> <p>①グループワーク→②グループワーク解除→③個人編集 (<u>解除してもグループワークの成果が残る</u>)</p> <p>※各グループのまとめを授業者がPower Pointを使ってPDF化し、Google Classroomで児童一人一人に配布する。</p>
ま と め 15 分	<p>5 当初の自分のまとめか、グループのまとめかどちらかを選び、修正する。</p> <p>6 ふりかえりを書く。 修正が終わった児童は、発表ノートを「提出箱」に入れる。</p>	<p>※どちらかのまとめをコピーしたのち、比較しながら修正できるようにする。</p> <p>※最初の自分のまとめから変わった点と、変えた理由について書くようにする。</p> <p>○供給の事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて、それらの事業が果たす役割を考え、適切に自分の表現を見直している。</p> <p>【思・判・表】(発表ノートから)</p>

成果と課題、指導・講評 【R4 4年 研究授業】

【○…成果 ●…課題】

1. 視点1 「『SKYMENU Cloud』を使用したことは、児童が自分のまとめを修正するうえで有効だったか。」

- グループワーク機能を活用して友達のまとめを見たことで、児童がよりよいまとめ方を探すことができた。
- 友達のシートから言葉などをコピーすることができるので、自分のまとめを修正しやすくなった。
- 全員に理解させたい内容を確認する時間を取るべきだった。

2. 視点2 「『SKYMENU Cloud』のグループワーク機能を使った学習活動は、話し合いを活発にするのに有効だったか。」

- 活動しながら自然に対話が生まれていた。
- 児童が考えやすいように、まとめの仕方の手本を掲示したほうがよかった。
- 話し合いを活発にし、児童への刺激を少なくするためにタブレットの数を減らすとよかった。

3. その他

- 全員がまとめを作成することに集中しており、誰一人として取り残されない学習になっていた。
- 「個人で考える→協働学習→個人の考えを修正する→自分の学びの変容を確かめる」学習過程により、児童が多様な考えに触れて新たな価値を見出すことができた。
- ICT機器のトラブルがあった。そういった事態も想定し、本時の目標に即した他の学習活動を用意しておくよかった。

指導・講評 NPO みんなのコード 福田 晴一 先生

- ・ICTトラブルが起きたときに、授業者が瞬時の判断で新たな別の活動を児童に指示することができていた。ICTトラブルはよくあることなので、起きたときにどのようにハンドリングするかを日頃から意識していくべきである。
- ・ホワイトボードが見つらい児童が、自発的に席を立ち、タブレットでホワイトボードの内容を撮影してからノートに写していた。タブレットを用いた合理的配慮が、日頃から学級の中で行われていることが分かった。
- ・ICTを活用する場面と活用しない場面を1時間の授業の中でいかにマネジメントしていくかが、今後の課題である。